

研究開発課題事後評価結果

事業名（年度）	次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業 (平成28年度～令和2年度)
研究開発課題名	糖鎖利用による革新的創薬技術開発事業
分担研究開発課題名	認知症の増悪に関わる脳アミロイドアンギオパチー：モデル動物を駆使した糖鎖標的の創薬意義の解明
代表機関名	公立大学法人福島県立医科大学
研究開発代表者名	北爪 しのぶ

【評価結果】

良い／総合的に計画した成果が得られた

【評価コメント】

アルツハイマー病に対する糖鎖創薬という視点からのチャレンジングな取り組みであり、多面的にモデルマウスの研究に尽力された。EC-APP770+マウスの脳低灌流負荷やAPP-KIマウスとの交配によって病態の形成（血管内へのA β 沈着の増悪）が見られた点や、研究開発代表者と分担研究者が研究に十分なネットワークを構成し、円滑にプロジェクトが推進された点についても評価できる。

一方で、モデルマウスの作製に時間がかかり、EC-APP770+マウスでのGalNacTの作用及び血中分泌型A β 前駆体タンパク質（sAPP770 β ）の診断・治療薬としての有効性については明確に示されなかったため、継続的な検討や得られた研究成果の発表、知財の確保が期待される。

以上